

STORY

今から約100年前、米国で誕生した小説「あしながおじさん。」そこから着想を得て、50年で1000億円を集め、10万人の親を亡くした子供の教育支援を続けてきた日本人がいる。80歳を超えるその男は「人生最後の仕事」を、貧困に喘ぐアフリカにターゲットを据えた。やる気満々のアフリカの若者が先進国の大学で学び、いつの日にか母国に戻って国造りに参加すれば必ずや貧困撲滅に繋がると信じている。だが、そのためには世界中から支援を集めなければならない。そこでとんでもないPR作戦に打って出た。あのミュージカル「レ・ミゼラブル」を創った最高峰の舞台演出家を口説き落とし、NYブロードウェイでコンサートを開こうという。ウガンダのエイズ遺児、東北の津波遺児、その小説のモデルとなったアメリカの大学コーラス部隊、つまり演出するのは全員が素人。しかし、最後はスタンディング・オベーション、感動の幕切れに。登場人物たちが人生に大事なことに気づき、そしてドラマティックに成長していく4年間を迫った、圧巻のストーリー。



悲しいのは、淋しいのは自分だけじゃないんだ。



シンプルギフト、それは神から与えられた最高の贈り物。



教育こそすべて。

篠田伸二監督・明治大学外国人留学生トークセッション

本作品監督である篠田伸二氏にお越しいただき、アフリカエイズ遺児に関する本上映会後のご講演と共に、明治大学に在籍する外国人留学生の多様なバックグラウンドを通じて、明治大学が実施する国連ユースボランティアプログラム(長期海外実習)やソーシャル・イノベーション実習(短期海外実習)をご紹介します。

パネリスト

監督

篠田伸二氏



1961年愛知県生まれ。上智大学外国語学部ポルトガル語学科卒業。在学中にブラジル・サンパウロの企業でインターン留学生として1年間を過ごした。大学卒業後、TBSテレビ入社。報道・情報番組、ドキュメンタリー番組のディレクター・プロデューサーを長年務め、デジタル戦略、文化事業プロデューサー、テレビ番組宣伝、プロ野球の横浜ベイスターズにも出向し、広報部長も務めた。ボランティアで長年関わってきたあしなが育英会会長の要請で、TBS在任中から映画撮影を開始。足かけ4年をかけた当作品を2017年1月に完成させた。現在、株式会社2s(トゥース)を設立、代表取締役。映像制作、舞台演出のほか、地方創生活動も開始している。

パネリスト

明治大学国際日本学部3年・あしなが育英会奨学生
アイネビヨナ・ロバート氏



明治大学国際日本学部3年・あしなが育英会奨学生。1992年生まれ、ウガンダ出身。両親を失い、2003年、あしながウガンダと出会う。以降、生活のため10代の頃から一人で暮らし、働きながら、あしながの活動に参加してきた。あしながウガンダで受けた教育的・心理的サポートにより、「将来、自分と同ような遺児たちを助きたい」との目標を見出し、勉学に励むなかで留学のチャンスを探し、2015年、明治大学国際日本学部の合格を勝ち取る。現在、大学3年生。大学の授業に加え日本語も猛特訓中。あしなが育英会留学生会(AISA)の会長として活動中。

パネリスト

明治大学副学長(広報担当)
牛尾奈緒美氏



明治大学情報コミュニケーション学部教授、慶應義塾大学文学部卒業後、フジテレビジョンに入社。アナウンサーとしてニュースや情報番組のキャスターを務める。結婚退社後、専業主婦となるが、一念発起し、慶應義塾大学大学院に進学。MBA取得、出産を経て大学院博士課程を修了し、1998年、公募で明治大学専任講師に採用される。2003年助教授、2009年より現職。専門は経営学、人的資源管理論で、働く女性の能力発揮の問題に取り組む。近著に、「女性リーダーを組織で育てるしくみ—先進企業に学ぶ継続就業・能力発揮の有効策」(中央経済社)、「ラーニング・リーダーシップ入門—ダイバーシティで人と組織を伸ばす」(日経新聞出版社)、「女性の働きかた」(ミネルヴァ書房)がある。